

学校図書館報

赤 土

第62号

編集・発行
群馬県立館林高等学校
学校図書館・図書委員会
印刷／東京広告株式会社



巻頭言

「AI時代を生きるための学び」

校長 委文 義之

夏季休業中に、進路指導部が新たに企画した夏季校外学習会に参加しました。そこで行われた模擬講義等の内容を一部紹介します。

これは、本校の昨年度の共通テスト会場でもある関東学園大学において、テスト会場の下見を兼ねた自学自習型の学習会です。その際、大学の「厚意によりデータサイエンスに関する模擬講義も開講していただきました。関東学園大学准教授の鄭宇景（じょううけい）先生による人工知能（AI）と未来の「学び」についてのご講義です。

講義の冒頭、「最近、驚くべきニューロースが飛び込んできました。AIを用いた囲碁ソフトウェアの開発者が、なんとノーベル賞を受賞したというのです。」との話題が提示されました。囲碁という、人間の直感と深い思考が求められる分野で、AIがプロ棋士の世界チャンピオンを打ち負かしたことは記憶に新しいことだと思います。その開発に携わった人が、世界で最も権威ある賞の一つであるノーベル賞を受賞した事実は、AIが単なる技術の進歩に留まらず、私たちの社会や知性そのものに大きな変革をも

たらしていることの証であるという内容です。ご存じのとおり、ノーベル賞は、物理学、化学、医学、文学、平和、経済学といった分野で「人類に最大の貢献をした人々」に贈られます。AIソフトウェアの開発がこの荣誉に輝いたことは、AIの進化が、人類の知のフロンティアを拡大し、これまでの学問の枠を超えた新しい価値を生み出していることと認められたことを意味します。

囲碁AIの開発は、単に強いプログラムを作ることだけではありません。人間の思考プロセスを深く理解し、それを超える新しい学習方法（機械学習）を確立し、さらに、その成果を人類共通の知として共有しました。ここにこそ、「人類への貢献」というノーベル賞の精神が強く表出されたと言えると思います。

そこで、これからの高校生

の「AIと学び」について考えてみました。

AIの進歩は、高校生諸君の「学び」にも大きな変革をもたらしていると思えます。AIが膨大な知識を蓄積し、複雑な計算やパターン認識を瞬時に行う現代においては、知識の蓄積は思

考、判断するうえで必要ではあるが、知識量そのものを評価することは少なくなっています。では、皆さんは何をどのように学ぶべきでしょうか。AIとどのように付き合っていくべきでしょうか。

ここからはあくまでも私案ですが、AIを「使う力」を磨くことは必要不可欠でしょう。現代社会においては、もはやAIの使用を否定することはできません。AIは強力なツールであり、鉛筆や電卓と同じように、使いこなすことで皆さんの可能性を大きく広げていきます。その当然のことながら、AIの仕組みを理解し、それを自分の学びや探究活動に応用する「リテラシー」の習得も必要となります。また、「知の統合」を

目指すことも面白いと思えます。ノーベル賞を受賞した開発者の功績は、囲碁から化学へ、つまり工学、数学、認知科学など、様々な分野の知識を統合した結果です。今後、皆さんも、教科の垣根を越え、異なる知識を結びつけ、教科横断的で複合的な問題解決能力を養うことが求められると思います。さらに言えば、「人間にしかできないこと」に価値を見出すことも面白いのでは

ないでしょうか。AIが得意とする分野、例えば、ゼロからの創造性、倫理的な判断、他者の感情を理解し共感する力、そして新しい問いを立てることなどです。これらは、皆さん一人一人の個性と経験から生まれる、代替不可能な価値です。ただし、AIも時代とともに進化を続けていますから、この不得意分野も近い将来は克服していくのかもしれないませんが・・・？

近年、AI技術の進化は目覚ましく、私たちの社会や生活は大きな変革の時代を迎えています。AIは情報処理や分析において人間の能力を凌駕する分野が増え、我々の働き方、学び方も劇的に変化を見せつつあります。今後、社会は効率性や自動化をますます希求し、君たちが社会に出る頃には、現存する多くの職業が形を変え、新たな知的スキルが求められるようになっていくと思います。ただし、AIがどれだけ進歩しようとも、時代を切り開くための根幹となる力は、人の「思考力」「想像力」「共感性」であり、この三つの力を育む鍵こそが、古典から最新の科学書までの多様な「読書」、情報のインプットとアウトプットによる錬成にあると確信しています。だからこそ、「読書」という行為とその学び方が持つ不変の価値と、その必要性をあらためて考えてもらいた



いと思います。本と向き合う時間は、情報を受け取るだけでなく、深く内省し、自分自身と対話する貴重な時間です。立ち止まって考える習慣とその思索こそが、変化の激しいAI時代において、皆さんが自分の軸を保ち、主体的に人生を選択していくための羅針盤となります。どうかこのAI時代を、ただ流れに任せて生きるのではなく、読書という名の羅針盤を手にもつて航海してください。そして、古典から最新の科学書、文学作品まで、数多くの「人間の知恵の結晶」がまつまっている図書館をはじめ、AIが提供してくる「答え」をも自身の思索、探究の材として最大限に活用してください。ぜひ、一冊の本を開くことを手はじめにAIを友として学び、このAI時代を生きるための確固たる人間力を育んでくれることを期待しています。

今年度実施された、「第71回青少年読書感想文全国コンクール」群馬県審査において、1年4組の坂本輝さんが「自由読書の部」にて「佳作」を受賞しました。

☆タイトル 間違いは成長のチャンス

◆対象図書：訂正する力 著：東浩紀 発行所：朝日新聞出版

「訂正する力」を読んで、間違いに対する自分の考え方について改めて考えさせられた。普段、テストで問題の答えを間違ってしまったら、友達との話で勘違いしたことを言ってしまったりすると、恥ずかしくなる。でもこの本を読んで、そういう考えを見直すきっかけになった。

著者が一番言いたいことは、間違いは恥ずかしいことではなく、むしろ成長するチャンスだということだった。確かに言われてみればそうだと思う。間違いを隠したり無視したりしていても、何も解決しないし、同じ間違いをまた繰り返してしまふ可能性が高い。自分も似たような経験がある。中学生のとき、英語の授業で分からないところがあっても、みんなの前で質問するのが恥ずかしくて黙っていたことがあった。その結果、基礎的なところが曖昧のまま進んでしまい、高校に入ってから英語が苦手なままである。定期テストでも思うような点数が取れず、英語の授業が憂鬱になることもある。あのとき素直に「分からない」と言えていれば、今頃はもう少し英語ができていたかもしれない。間違いを恐れて

質問しなかったことが、かえって自分の首を絞める結果になってしまった。この本では、訂正することの手順も書いてあった。まず間違いに気づくこと、その次にそれを素直に認めること、そして適切に直すこと。簡単に聞こえるかもしれないが、実際にやってみるとなかなかできない。特に人前で間違いを認めるのは勇気がいる。人間関係でも同じことが言えると思う。友達と喧嘩をしたとき、自分が悪かったと分かっているけど、プライドが邪魔をして謝れないことがある。変な意地を張ってしまつて、関係がギクシャクしたまま時間が過ぎてしまふこともある。でも間違いを認めて謝ることは、相手を大切に思っているからこそできることなんだと気づいた。実際に素直に謝ったときの方が、友達との関係がより深くなった経験もある。逆に間違いを認めない人とは、深い関係を築くのは難しいだろう。お互いに本音で話せなくなってしまうからだ。最近ではSNSで情報を発信することも多いけれど、間違つた情報を投稿してしまつた場合は訂正しないとイケない。ネット上では情報が広がるのが早いので、

間違いを放っておくと多くの人に迷惑をかけることになる。今まで自分は、間違いを犯さないことが優秀だと思っていた。でも実際は、間違いから学んで成長することの方が大切なかもしれない。失敗を恐れて何もしないよりは、失敗してもそこから学ぶほうが良いと思う。

学校でも、授業中に間違つた答えを言ってしまったときや、テストで思ったような点数が取れなかったとき、部活でミスをしてしまったときなど、全部を成長の機会だと考えれば気持ちが良い。例えば、この前の数学のテストで計算ミスをしてしまったときも、落ち込むだけでなく、どこで間違えたのかをしっかり確認して、同じミスを繰り返さないように気をつけるようになった。部活動でも、サーブをミスしたとき、失敗を恐れて消極的になるよりも、なぜミスしたのかを分析して次に活かす方が上達に繋がると感じている。間違いを恐れていては何も始まらない。

将来働くようになったときのことを考えても、間違いを認めて直せる人の方が信頼されると思う。完璧な人なんていないのだから、間違いをしたときにどう対応するのが重要なんだろう。この本を読んで、自分の行動を振り返ってみた。これからは間違いを恐れずに、

分らないことは素直に質問したり、間違いに気づいたらきちんと訂正したりしようと思う。そうすることで、少しずつでも成長していけるのではないかと感じた。間違いを訂正するというのは、技術というよりも心の持ちようなのかもしれない。完璧を目指すのではなく、常に改善していこうという気持ちが大切なのだ。自分も素直で誠実な人になりたいと、この本を読んで思った。実際に生活の中で実践してみると、思っているよりも難しいこともあるだろう。でも少しずつでも意識して取り組んでいけば、きっと変わっていくはずだ。間違いは人間らしさの根拠でもあるし、そこから学んでいく姿勢を大切にしたい。

この本のおかげで、間違いに対する見方が変わった。これまでは避けたいものだと思っていたけれど、これからの成長のきっかけとして前向きに捉えていきたい。まだ実際は始めたばかりで、つい昔の癖で間違いを隠そうとしてしまうこともあるが、少しずつでも意識を変えていこうと思う。完璧な人間になる必要はないし、間違いを通じて学んでいくことこそが人間らしい生き方なのかもしれない。そんなふうにも考えられるようになったことが、今回の一番の収穫だった。

① 「わたしにはおっ母さんがいなかった」
② 特定のジャンルや作家を決めて読むことはあまりありません。その時々話題になっている本や、書店でふと目に留まった本を手取るが多いです。最近自己啓発書を読む機会が増えていきます。
③ 小学生時代の夏休み、学校図書館の貸出日が限られていたことがきっかけでした。通常は平日自由に本を借りることができましたが、夏休み中は決まった日しか利用できなかったため、「この日まで借りた本を讀み終えて、次の本を借りよう」と思うようになり、自然と読書の習慣がついたよ

新着任者座談会

テーマ 私と読書
令和7年5月23日(金)
於 社会科教室

第一学期期末考査最終日、新着任の先生方に読書体験を話していただく新着任者座談会が開催されました。事前にお答えいただいたアンケートを掲載させていただきます。

- ① 一行の本棚(心に残っている本、おすすめの本の中の、「これ」という一行)
- ② 好きなジャンルの本・作家
- ③ 読書の「きっかけ」
- ④ 活字離れの高校生へ向けて
- ⑤ 電子書籍について



赤井恵美子 教頭先生 (家庭)



小野隆 先生 (数学)

④ まずは、少しでも興味を持った本を気軽に手に取ることが大切だと思います。それを繰り返すことで、読むことが習慣になっていくのではないのでしょうか。難しく考えず、自分の関心から始めることが第一歩だと感じます。
⑤ スマートフォンさえあれば、いつでもどこでも読める電子書籍は大変便利です。一方で、紙の本にはページをめくる感触や本そのものの存在感といった魅力があります。場面や目的に応じて使い分けることで、読書の楽しみはさらに広がると思います。

① 「夢を持って生きることが重要だ」という考えは間違っている。「いつかこんなことができたらいいな」という夢は実現しないまま終わる可能性が高い。もし何かを成し遂げたいのだったら頭の中で妄想を広げるのではなく、すぐに取り組んで毎日1ミリでも前進することだ。
② 特に好きなジャンルや好きな作家はいません。書店や図書館をふと訪れたときに、興味が沸いた本を購入したり借りたりしているかと思ひます。

③ 恥ずかしながら、高校時代まではそれほど読書をしていなかったかと思ひます。大学時代に、数学の専

門書を読むようになってから、専門書以外の本も読むようになったか?と思いますが、そのことがきっかけかどうかは微妙です。

④ 前任校では、毎朝10分間の朝学習を行っていた。1年間に3〜4回、「読書週間」を設けて生徒各自で本を持参し、その1週間は、10分間の読書をしています。また、その朝学習の中で、週に1回「コラム学習」を行い、先生方が用意した新聞等のコラムを生徒に読ませ、大事なところを線を引きかせたり要約させたり感想を書かせています。図書室の活用を促したりすることは大切ですが、必ずしも「活字離れ」本離れ」ではなく、新聞等の一部の記事や、興味のある雑誌等の記事などを読むことを薦めるのもよいかもしれません。

⑤ 私は電子書籍を活用したことはありませんが、電子書籍は高校生を含む若者には「活字離れ」を解消する一つの手段としては大いにありだと思えます。生徒が積極的に図書館(学校の図書室を含む)や書店に行くのが難しくなっている(特に書店自体は少なくなってきた)ので、スマホなどで容易に活用できる電子書籍は有用だと思います。ただし、読みやすいかどうかは読む人によるので、本(紙)がよいのか電子書籍がよいのかは各自で選択すればよいでしょう。私も電子書籍を活用してみたいと思います。



田口 亜希 先生 (英語)

① もうやらないっていう理由なら明確に言えるよ、コスパが悪いから

② ミーハーなので、直木賞とか本屋大賞とか、話題の一冊は気になります。ミステリーものや恋愛ものなど、比較的身近な題材を扱っていて、気軽に手に取ってしまふような、それでいて今の自分を取り巻く環境ではちよつと起り得ないだろう殺人事件など、背景や登場人物の心理描写などを、丁寧に読み進めていく感じが好きでよく読んでいます。センセーショナルで面白かった本が映画化され、観たら原作と違つてがっかり:といったことがよくあります。すが、湊かなえや東野圭吾は、逆に「これも映画化されるかな」「この人物はどの俳優さんが演じるかな」などの俳優さんが推測しながら読んでいます。

③ 読書カードだったと思えます。昭和の時代は、図書室で本を借りるのに、本のタイトルをカードに書いて司書の先生が借りた日と返却日をサインしてくれたのですが、カードの表面が全部いつばいになって、裏面にいつた!とか、カードが2枚目に突入した!など、借りれば借りるほど、自分がちよつとずつ成長して行く気がして、小学校低学年の頃は、とにかくたくさん本を借りて読んでいました。

その後は、読書よりもスポーツに没頭少女:でしたが。④ 普段から、本を一冊持ち歩くといふと思えます。忙しくて、なかなか集中して読書するのは難しいですけど、ちよつとした時間に、スマホを眺めるのではなく、本のページを開いて、続きを読み進めるのは、作品の世界観に浸れて、現実逃避?ができて、なかなかいい時間です。

⑤ 仕事上パソコン画面に向かう時間が多く、眼精疲労がはなはだしいため、なるべくならスマホも長時間使いたくないくらい。なので、電子書籍は読みません。でも、通学や通勤時間に電車内で読んだり:本を持ち歩かなくても、どこでも自由に読書ができるのはメリットかな、とは思っています。でも自分は、カバンに一冊持ち歩き、気に入つたしおわりやブックカバーにもこだわりた:アナログ派です。



松本 春菜 先生 (国語)

① 少女は何かを置き忘れたかのように後ろを振り返る。そこには何も見えない。来なかつた春、見ることもなかつた春、ひとりぼっちの春、誰もいない春、そんなものの気配はどこにもない。そこにはただ、冷たい青空に煙る薄桃色の時間が流れているだけ。

② 特にないです。読みたいと思つた本はかたづけしから読んでいきたいです。

(絵本も漫画も) ホラー系だけは少し苦手です。読んだことを自分事として置き換えてしまうからです。小学生の時は岡田淳や柏葉幸子、中学生の時は恩田陸、宮部みゆき、京極夏彦、大学生の時は伊坂幸太郎あたりをずっと読んでいたように思います。

③ 小学校の図書館が好きだったので、気が付いたら読書していたように思いません。あんまり記憶がありません。ただ歴史漫画とか手塚治虫ばかり読んでいました。夏休みは、自分の住んでいた街の図書館に行つてひがな一日本を眺めていたり、読んだりしていました。

④ 媒体はなんでもいいので読むことを習慣づけられるといいのではないかと思っています。活字離れしている高校生に、読めといつたところで読まないですから、自分が読みたい、読むことが自分にとって良いことであると実感できないと難しいのかなと思えます。

むしろ、活字離れしている高校生たちに、どんな工夫をすれば読むのかを聞いてみたいくらいです。ちなみに、読書はストレスを7割減少させるとかなんとかつて、「スマホ脳」に書いてあつたような気がします。

⑤ 今は、大半の人がスマホを持つています。ある意味、自分だけの本

棚を持ち歩くことができるという点です。便利だと思えます。電子書籍を読んでいる姿は、何かかっこいいなと思うので、憧れの気持ちもあります。

しかし、個人的には、頁をめくるといふ行為や本の匂いが好きなので、あまり使用したことはありません。



亀田 絵理 先生 (理科)

① この事件を君の記録のなかに加わるとしてもね、いかに優秀な頭脳も、ときに光輝を一時喪失することもあるものだといふ実例にしかなるまいよ。そういう失敗は誰にでもあるもので、その錯誤を自覚して、是正する人が偉いのだ。

② ミステリーや「化学」系、「京都」が舞台となつているものを多く読んでいます。コナン・ドイル、喜多喜久、森見登美彦など。③ きつかけは覚えていませんが、小学生の頃は学校の図書室や地元の図書館へよく通つていました。シャーロックホームズシリーズを読んだり、手塚治虫作品を読んだり:様々なものを読んでいたと思えます。本を自分で購入するようになったきっかけは、中学生の時の「朝読書」に向けて、あさのあつこさんの『バッテリー』を準備したことです。『バッテリー』シリーズをそろえ、何度も読み返

しました。その頃から書店へ通うようになり、様々なジャンルの本を読むようになりまし。④ ライトノベルでも、漫画でも、好きなものを読むと良いのかなと思えます。

⑤ 電子書籍は端末一台で好きな本を好きな時に読むことができるので便利だと思えます。ただ、私は「実物」があつた方がよいので、書籍は購入する派です。



田中 秀幸 先生 (理科)

① 生まれながらにして数学ができる人などいないし、数学ができるから頭がいいなどというのは迷信である。しよせん、数学も基本の暗記から始まるのである。基本を身につけるには繰り返しかない。使える道具をいかに増やすかが課題である。

② 学参(学習参考書) 関正生、橋爪健作、漆原見③ 自分は自己啓発本やビジネス本を読むことが多いですが、読書するようになつたきっかけは、ある本屋で見かけた広告に惹かれ、面白半分で自己啓発本を手にとつてみたことでした。

④ きつかけづくりだと思えます。読んでみると、科学的な根拠に基づいた知見が単純に面白く、それ以来、自己啓発本を読むようになりまし。また、ビジネス書に關しては、世の中で成功を収めた人々の考えに觸れることで、物事を異なる

視点から捉える面白さや、自分自身の人生のヒントが得られると感じています。そうした体験を通して、自然と本屋に足が向き、読書が習慣になっていきました。

⑤ 個人的には、よいのではないかと思っています。スマートフォンさえあれば、いつでもどこでも手軽に読書ができるため、移動中やちょっとした隙間時間も有効に活用できます。その結果、読書が日常の一部となり、自然と読書習慣の定着にもつながるのではないのでしょうか。



田澤 佑真 先生 (地歴)

- ① 千代子は文庫を抱いて立ち上がった。障子を開けると、上から僕を見下ろして、「嘘よ」と一口判切云い切ったまま、自分の室の方へ出て行った。
- ② 近代文学や人文書などです。文学作品だと、夏目漱石、三島由紀夫、遠藤周作などが好きです。
- ③ ずっと野球をしていたので本を読む時間がなかったのですが、近代文学に親しむようになったのは、受験生の時に現代文の問題として読んだ夏目漱石の『彼岸過迄』でした。美しい文章と会話の奥ゆかしさに衝撃を受け、問題を解くどころではなかったのを覚えています。その後、大学ではこれまでの時間を取り戻すかのように、文学作品を読み漁りました。

人文書は、大学で歴史を専攻し、哲学にも傾倒していたので、そういった関心から読むようになりました。大きなきっかけは、アイン・ランドの『水源』(原題: The Fountainhead)を読んだことと、遠藤周作の『沈黙』を読んだことです。両方とも小説でありながら、非常に示唆的な内容を含んでおり、すばらしい作品です。

④ オススメされたものを読んでみる。めんどくさくても、興味を持ってなくても、まず読んでみることで世界が広がるかもしれません。

⑤ 自分は印象的な文章などに線を引くことが多いので、紙の方が好きです。あと、本棚に本が揃うのは嬉しいですし、本屋に行つて偶然の出会いを果たせるのは、紙の本の良いところだと思います。ネットでもろえる自分が興味のあるものばかりオススメされるのでまったく世界が広がらないなと思ってしまう。



加藤沙和子 先生 (英語)

① 六つするとき、原始林のことを書いた「ほんとうにあつた話」という本の中で、すばらしい絵を見たことがあります。それは一びきのけものを、のみこもうとしている、ウワバミの絵でした。これがその絵のうっしです。

② 児童文学・外国文学・

マンガ・ライトノベル・辞書・文法書等、子ども向けの本から言語に関する専門的な本まで、横断的に読めます。特に、『ジョジョの奇妙な冒険』の作者である荒木飛呂彦先生と『NARUTO』の作者である岸本 斉史先生は、私の中でトップ争うくらい好きなマンガ家さんです。もちろん、上記以外にも好きな作家さんはいませんが、書ききれないと思うので割愛します。

③ 私が高校1年生(16歳)の時に、担任の先生が「**含み**」という言葉の意味を知っていますか?と、私にだけ聞いてきたことが、読書をはじめるときにかけだつたように思います。

④ 例えば、「絵本から読みはじめ、マンガ↓短編↓中編↓長編小説と文字数のレベルを発展させていく」というのは、どうでしょうか?あるいは、活字アレルギーを持った生徒さんだったら、「アニメやドラマを鑑賞してから、その原作である本に返り読みしていく」というのも面白いと思いますよ!特に、原作からアニメ・ドラマに設定を移植した時に、「この部分が原作と違う」とか、原作の文字表現が「二次元や三次元になる」とどう表現されるようになるのだろう?といったように、比較読みするのも一興だと思います!!長くなるも嫌いな人も田島先生が優しく、みなさんを迎え入れてくださいますよ。是非、

図書室に立ち寄ってみてくださいね!!!

⑤ 基本的に電子でも紙でも、自分が管理しやすいものを扱うのが一番だと思います。私の場合は、本当に気に入った作品のみを紙で購入し、無料開放期間で試し読みしてみても、直感で「デイモルト・ベネ(非常に良い)!!」と思つた作品を電子で購入します。うん:アレ???紙が良いのか電子が良いのか、わからなくなっちゃいました。悩ましい問題ですね。



青木 杏奈 先生 (理科)

① コジコジもコジコジだよ。どんな時もコジコジだよ。そりゃそうさ。誰でもいつでもそうなのさ。誰でもいつでも生き物で命なのさ。同じエネルギーが流れているのさ。

② 特にジャンルのこだわりはなく、本屋さんで気になった本を読んでいます。学生のときは東野圭吾さんが好きでよく読んでいました。

③ 小学生のときに図書委員になったことがきっかけです。図書委員になったことで図書室に行く機会が増え、読書をするようになりました。

④ 本屋さんを見かけたら入口あたりまででも立ち寄ってみるのはどうでしょうか。入口には話題の本やおすすめの本が置いてあるので、読んでみたいと思え

る本が見つかるかもしれません。

⑤ スマートフォンやタブレットさえあれば、いつでもどこでもすぐに購入し読むことができるので便利だと思います。また、売り上げランキングや口コミが見られたり、書籍の試し読みができたりするところも便利だなと思います。



『七校合同読書会』

令和7年11月18日(火) 大泉高校にて行われました。

☆テキスト
『15歳のテロリスト』 松村涼哉著 / KADOKAWA
☆テーマ
「正義を追求することと復讐することとは違うのか」

◆1年1組9番 小野澤俊普

校内の読書会では、同じ1年生同士で本を読んで事前に立てた問いに対して、自分の意見を話し合いました。それぞれ考え方が違い、自分にはない考え方も知ることができました。特に「渡辺篤人と同じような境遇になつたらテロリストになるか」という問いのところでは自分と違う考え方の人が多かったです。また、この問いでは自分の考え方が大きく変化しました。

校内の読書会他七校合同の読書会にも参加しました。合同読書会に参加する前は他校の人と話せるか心配でしたが、話し合いが進んでいくうちに打ち解けることができ、徐々に会話が活発になりました。特に同じ登場人物でも人によって共感できる理由が異なっていたので、印象に残った人物や共感できた人物をあげる所が心に残りました。そのため本を読むときも見方によって、意見や考え方が変わるということを知ることができました。

◆1年1組18番 小竹 大心
七校読書会は、和やかな雰囲気でした。私のグループの方々も皆、本をよく読み込んでいて、話し合いが滞ることはありませんでした。そして、余った時間でお互いの高校の情報共有をし、楽しく話せました。話し合いの時間も長すぎず短すぎず、ちょうどいい適切な長さだったと思います。本のテーマも概ね話しやすかったです。

◆2年2組6番 木部 巨
七校合同読書会への参加は、自分の意見と相手の意見を交換できるいい機会となりました。特に私は今回のテーマとなる本を推薦したため、話し合いの中で自分では気づくことのなかった点に気づかされ、自分とは異なる視点で周りの人たちは見ているのだと改めて感じました。同じグループとなった人たちが、しっかりと本を読んで内容を綿密に考えられていたと感じてとても嬉しかったです。

◆2年2組8番 杉山 颯汰
私は合同読書会に参加して、テキスト本である『15歳のテロリスト』について物語の理解を深めることができました。この本は家族を殺された少年が復讐することを誓い、テロリストになる話です。最初は少年の考えに共感していましたが、物語を読み進め、被害者家族のことを知っていくうちに、なんともいえない気持ちになりました。

読書会での意見交換では、被害者家族のことや少年法について様々なことを班の方たちと話しました。それぞれの意見を聞いて、いろいろな学びを得られたこの本を自分の周りの人に薦めたくなりました。とてもいい経験になったと感じています。



「名ばかりの講師を 務めて思う事」

今回、図書館主催の講演会の講師を担当させていただきました。講演会という、専門的知識を持った方が、その専門分野について演説する様子をイメージする方が多いと思います。担当した私でも、そう思いま

す。過去に担当された先生方の講演の内容を確認させていただいても、確かな知識に裏付けされた素晴らしいものであったことが推測できました。そのため、自身自身に演説をするだけの専門的な分野があるのか、と講師を依頼されてから自問自答を繰り返して、眠れぬ日々を過ごしました。そこで、苦肉の策として、『河田の読書史』という、どうとでもなるようなタイトルの下、とにかくその時間をやり過ごすこととしました。一つだけ言い訳がましい理由をつけるならば、「図書館主催」ということだから、参加していただいた方が、講演中に話した本にちよつと興味を持ってくれればいいのか、という思いで講演をさせていただきました。

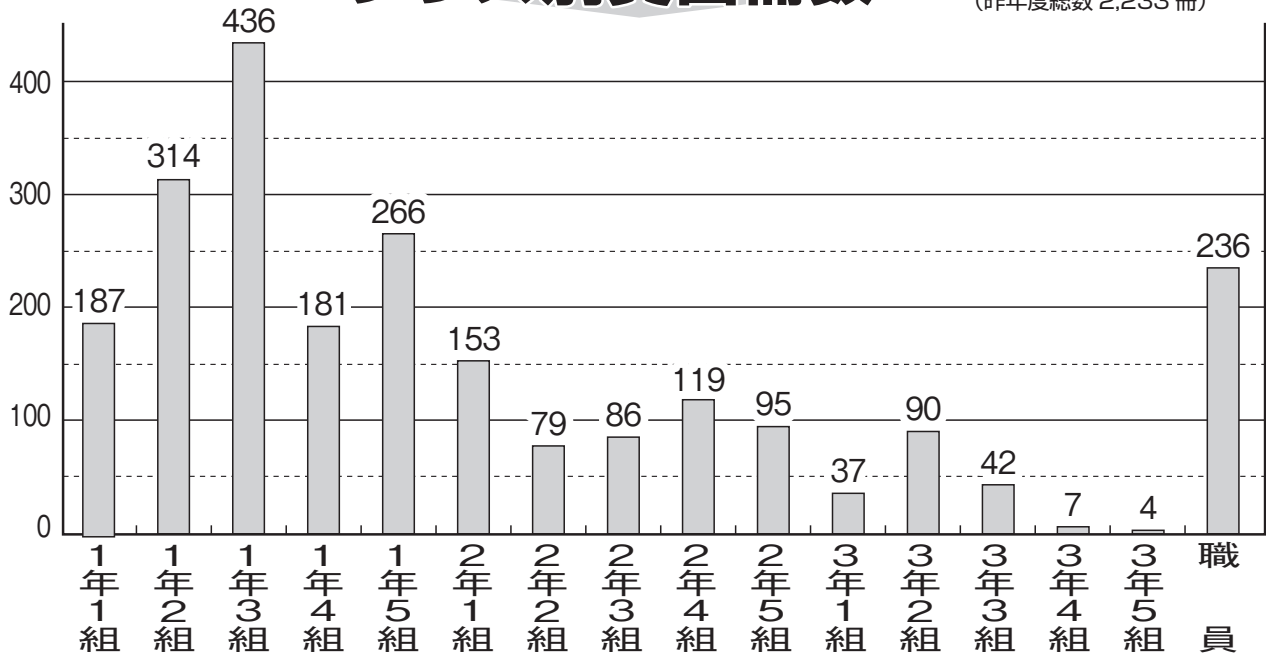
講演内容としては、
1. 河田黎明期
〜本との出会い〜
2. 河田過渡期
〜星との出会い〜
3. 河田形成期
〜神話との出会い〜
4. 河田最終形態
〜「古事記」との出会い〜
5. おわりに
〜みなさんとの出会い〜
の五段階構成でお話をさせていただきました。

2025.4/1~2026.1/9

クラス別貸出冊数

本年度総数 2,332 冊

(昨年度総数 2,233 冊)



人気貸出図書

| 順位 | 書名 | 利用者数 |
|----|----------------------------------|------|
| 1 | ロクでなし魔術講師と禁忌教典 ① (羊太郎著) | 6 |
| 2 | Re:ゼロから始める異世界生活 ② (長月達平著) | 5 |
| | ありふれた職業で世界最強 ② (白米良著) | 5 |
| | マスカレード・ライフ (東野圭吾著) | 5 |
| 3 | 海ゴミ 拡大する地球環境汚染 中公新書 (小島あずさ、眞淳平著) | 4 |
| | ホンモノの思考力 ロクセで鍛える論理の技術 (樋口裕一著) | 4 |
| | 続ける力 仕事・勉強で成功する王道 (伊藤真著) | 4 |

貸出利用冊数上位者

| 順位 | クラス | 氏名 | 利用数 |
|----|-----|-------|-----|
| 1 | 1-3 | 亀田真廉 | 151 |
| 2 | 1-3 | 坂本悠 | 143 |
| 3 | 3-2 | 新井祥太 | 83 |
| 4 | 1-5 | 北村勇伎 | 74 |
| 5 | 1-2 | 野口真路 | 59 |
| 6 | 1-2 | 酒本和諒 | 43 |
| 7 | 2-1 | 饗庭僚太 | 33 |
| 8 | 1-1 | 小野澤俊普 | 23 |
| 9 | 2-4 | 茅野智己 | 22 |
| 9 | 1-2 | 高橋諒河 | 22 |
| 10 | 2-1 | 安西湧 | 21 |

図書委員回顧録

「図書委員会活動を振り返って」

3年3組 栗原 空良

私は、三年間図書委員を務めました。この三年間で私は様々な行事を体験することができ、大変でしたが同時に充実した時間を過ごすことができたと考えています。

一年次は、すべての行事が初めてでとても新鮮でした。この中でも新書読破月間では、中学生の頃には読んだことなかった専門的な本に触れ、参考書以外の本で知的好奇心をくすぐられるという経験をしました。今では、手元においておきたいと思えるような新書に出会うことができ、感謝しています。また、新着任者座談会においては、先生方おすすめの本や本との付き合い方について学び、とても有意義な時間を過ごしました。さらに、図書館での作成に関わる仕事もさせていただきました。仕事もさせていただきました。仕事としてみる〇〇先生おすすめの本を、その先生に執筆していただくように依頼するという仕事でしたが、喜びは大きかったです。

二年次には、基本の仕事であるカウンター当番だけでなく、図書館主催の講演会の司会進行をさせていただきました。「椅子から学ぶデザイン史」という題で熱弁をされていたとき、デザインの始まりやその時代が求

める椅子について知ることができました。司会進行の面では、「最初は簡単なセリフだから余裕だ」と思っていたのですが、本番になると緊張してしまい、噛んでしまった所もあったので、どんなに簡単なことでもしっかりと練習してから本番に臨むようにしようという教訓を得ることができました。

最後の三年生では、大学受験を控えているため、一学期のみの仕事でしたが、カウンター当番と図書館日より掲載する図書委員おすすめの本の仕事もさせていただきました。自分の好きな本を紙媒体で紹介するのは初めてだったので、「アルジャーノンに花束を」や「死ぬかと思った(シリーズ)」等を自分なりの文章で紹介することができたことは、記憶に残る大きな仕事でした。

このように三年間図書委員を経験して感じたことは、やることは多いですが、それ以上に楽しさや本に関わることができる喜びがあったということです。本に関わりたいたいという思いが少しでもあれば、ぜひ図書委員になってみてください。きっと楽しいことが多いはずですよ。

